

平成29年度 第27回全国女性建築士連絡協議会 アピール

公益社団法人日本建築士会連合会
女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、平成2年に東京で第1回目を開催後、各地域で毎年開催し、今年で27回目を迎えます。女性委員会を立ち上げた初代女性委員長をはじめとして、全国の女性委員長ならびに女性委員皆様との連携によりここまで開催してまいりました。また、連合会会長および担当副会長、事務局と多くの方々の活動へのご理解に深く御礼申し上げます。

昨年は、4月に「熊本地震」、10月に「鳥取県中部地震」が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、被害にあわれた方々の日常が一日も早く戻られることを祈念いたします。

6年前に発生した東日本大震災直後から、震災などの被害のみならず復興状況の情報発信を毎年継続して実施しております。これは、まさに女性ならではの地域に根差した長期的な活動の形です。風化させない情報発信の継続が全国の防災活動の促進と、地域と一体となる防災活動の指南役となる事を目指しています。今年も被災された地域、岩手県、宮城県、福島県、熊本県、鳥取県の建築士会より現状をご報告いただき、実際に活動された内容を学び、共有することで建築士としてこれから何ができるか、共に模索してまいりたいと考えます。

本年度は、メインテーマを「未来へつなぐ居住環境づくり」とし、「和の空間を考える」をサブテーマといたしました。私たち女性建築士は、住まいの中から失われつつある和の空間や和の要素を改めてとらえ直し、これからの居住環境づくりに活かしていきたいと考えます。

1日目の約300名の女性建築士が一堂に会する全体会では、基調講演に博物館明治村館長であり、早稲田大学名誉教授の中川 武氏をお迎えし、「和の空間を考える一居住環境にとって美とは何か」をテーマにご講演いただきました。

各地域ではそれぞれ活発な活動を行なっておられます。今年は、その中より、北海道建築士会の「高校での住教育講座への取り組み」と宮崎県建築士会の「ノベオカノマドハウス」のご報告をしていただきました。

2日目の分科会では、「防災への取り組み」「地産地消のすまい」「歴史的建造物と建物再生」「環境共生住宅」「自治体連携とまちづくり」「子どもと住環境」「高齢社会と住まい」「既存ストックの活用」の8つのテーマのもとに熱心に討論を進めました。

それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信してまいります。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、女性建築士としての感性を活かし、暮らしやまちづくりにおいて子供たちや高齢者にやさしい「居住環境づくり」を目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、日本の住まいの中から失われつつある和の空間を再認識し、次世代へ和の豊かさを伝えていくことに取り組んでまいります。
3. 私たちは、震災報告等の情報発信を通し、女性建築士として、防災と復興支援のあり方を考え、これからの暮らしを守ります。
4. 私たち女性建築士は、様々な分野の専門家との連携を深め、誰もが暮らしやすい社会の実現のため、職能を活かした提案を行なってまいります。